

武器ではなく 音楽を通して 真実を訴える

福岡陽子さん



平和のバトン

今は亡き祖母は、毎年お盆が近づくと、長押に掛けられた写真を見上げ、戦死した長男について独立を拒否したとして処分を受け、裁判をたたかつた元音楽教師。裁判は最高裁判で敗訴しましたが、たかいの中でも生まれたコンサート「自由な風の歌」は今年で18年目。去る9月16日四谷区民ホールで開催されました。

福岡陽子さん。入学式のピアノ伴奏を拒否し、懲戒

回は今年4・5月のインタビュー記事に登場した福岡陽子さん。入学式のピアノ伴奏を拒否し、懲戒

处分を受け、裁判をたたかつた元音楽教師。裁判は最高裁判で敗訴しましたが、たかいの中でも生まれたコンサート「自由な風の歌」は今年で18年目。去る9月16日四谷区民ホールで開催されました。

山梨版に登場した皆さんその後。今回は今年4・5月のインタビュー記事に登場した福岡陽子さん。

山梨版 その後

コンサートは、05年、福岡さんの裁判に韓国人ピアニスト崔善愛さんが陳述書を、音楽家林光さんが意見書を、それぞれ提出したことがきっかけで始まりました。

今年のコンサートの副題は『われらさすらい人』。はじめのあいさつで、「この副題は、

東京『君が代』裁判5次訴訟がいよいよ12月に結審へ向かう今の心境・状況を比喩している」と語られました。

「さすらい人達は武器ではなく、音楽を通じて真実を訴える。音楽にはそのような力がある」という印象的な言葉が続きました。人権活動家の

16日のコンサートには、実行委員の一人として、合唱団の一員として福岡さんも登壇しました。人権活動家の

ノ崔善愛さん、ヴァイオリン戸島さや野さん、オーレン戸島さや野さんの演奏でバルトークの「ヴァイオリンとピアノのための狂詩曲第1番」で始まり、舞踊家北原志穂さんによるサンターナー「カルメン幻想曲」のフラメンコが

披露されました。ハンガリーに生まれたバルトークとスペイン・バスク地方に生まれたサラ・ノ・ラサーテ「カルメン幻想曲」のフラメンコが

披露されました。ハン

ガリーに生まれたバルトークとスペイン・バスク地方に生まれたサラ・ノ・ラサーテ「カルメン幻想曲」の副題にふさわしい選曲に、連帶と共感が涌く熱い会場となりました。



トーキーとスペイン・バスク地方に生まれたサラ・ノ・ラサーテ「カルメン幻想曲」の副題にふさわしい選曲に、連帶と共感が涌く熱い会場となりました。

曲に、連帶と共感が涌く熱い会場となりました。

曲に、連帶と共感が涌く熱い会場となりました。